

教えて! ドクター

Q&A

Q 検診でお酒はあまり飲まないのに脂肪肝と言われました。今は特に症状もないのでそのまま放置していてもよいのでしょうか?教えてください。

A 脂肪肝とは、肝臓に脂肪が過剰に蓄積した病態とされ、画像もしくは組織学的に肝細胞の5%以上が脂肪化している状態を指します。日本では成人の4人に1人は脂肪肝だと考えられ、約3000万人と推定されています。

従来、脂肪肝は飲酒量によりアルコール性脂肪性肝疾患と非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)に分けられてい

ましたが、NAFLDの病名が病態を正しく表していないこと、その名称が社会的な差別偏見を生む可能性があり、現在では「代謝機能障害関連脂肪性肝疾患(MASLD)」に変更されています。その診断には、飲酒量、B型・C型といったウイルス性肝疾患、自己免疫性の肝炎の病歴に関係なく、脂肪肝に代謝異常が合併していることが条件で、具体的には脂肪肝に肥満・糖尿病・高血圧・高中性脂肪血症・低HDLコレステロール血症などいずれかが合併している場合に診断されます。

MASLDがなぜ注目されてきている理由には、一つは肝がん・肝硬変の原因として増加してきているということ、もう一つはMASLDの死因は多い順に①脳梗塞や心筋梗塞など心血管イベント、②大腸癌や乳癌など肝以外の他臓器癌、③肝関連疾患であり、生存率に影響を及ぼす重要な因子である肝線維化が進み、脂肪肝炎

(MAH)や肝硬変に移行すると、肝臓以外の原因で亡くなる可能性が高いということがわかってきているからです。脂肪肝には危険なタイプもあり、検診で肝機能検査に異常が指摘された場合、特に血液検査でALT/30の方は、一度病院を受診することをお勧め致します。



北村内科クリニック
理事長 北村 秀綱

神戸大学医学博士。日本循環器学会循環器専門医。神戸大学病院や民間病院で20年以上多数の心臓ペースメーカーやカテーテル手術をはじめ、生活習慣病や人工透析にも携わる。現在は、専門分野である循環器・呼吸器疾患を中心に、地域のかかりつけ医として幅広い年齢の患者様を診療する。